

新聞を活用して、相手意識をもち表現する力を育てる指導はどうあったらよいか。

～小学校6年生に向けた学校紹介新聞作りを通して～

指定校1年次 南木曾町立南木曾中学校 太田 裕一

1. 本校の新聞活用（NIE）の現状

今年度、本校は長野県NIE研究指定校1年目となり、NIE研究部会を新規に立ち上げた。「自分から進んで学習に取り組み、学力を身につけていく生徒の育成～かかわって課題追究していくための支援・指導はどうあったらよいか～」の全校研究テーマを受け、NIE研究部会は1から手探りの研究を始めた。

明確な数値が結果として出るアンケートのような調査は行っていないが、口頭での調査によると本校の約半数の家庭で新聞を購読していない実態が分かった。今年度の実践を中心となって行った1学年では、約2/3の家庭で新聞を購読しておらず、生徒たちにとって新聞が身近な存在でないことは明らかであった。そのため、学年行事のまとめ等で作成する新聞も「新聞風のもの」であることが多かった。

そこで、指定校1年目は新聞社から提供していただける新聞や出前講座などの教材を有効に活用し、「新聞を身近なものにすること」「新聞を使った学習を通して自分たちの課題を克服すること」を目指したいと考え、研究を進めた。

2. 実践のねらい（育てたい力）

中心となって実践を行った学級（学年）の生徒は、やや幼さも残るが非常に活発で、学習や学校行事に意欲的に取り組むことができる。授業中も積極的に発言したりつぶやいたりする姿が見られる。しかし、それらの発言は思いついたことをそのまま言葉にしていることが多く、前後のつながりを意識していなかったり根拠がなかったりすることがほとんどである。また、日記や作文では、出来事や感じたことを時系列で書いているだけで、相手に伝わりやすい文章になっていないことが多い。自分の考えを発表の際に相手に背を向けてしまったり声が小さかったりする、文章を書く際に丁寧に読みやすい字を書くことができない等、相手に伝えるために必要な“方法”も十分に身につけていない様子が見え、分かりやすく伝えようとする「相手意識」を持っていないことは本学級（学年）の重要な課題であると考えた。

こうした生徒の実態を踏まえ、本年度の実践では新聞を活用した学習を通して、以下の点について取り組むことにした。

①新聞・社会への関心を高める

新聞を購読していない家庭が多く、新聞を手にしたことがない生徒も少なくない。また、生徒同士の会話を聞いていると、社会への関心が低く視野が非常に狭いことを感じる。新聞を手に取り、目を通すことで、社会に関心をもつことにつなげたい。

②本物の新聞作りを学ぶ

NIE研究指定校となったことで、新聞社のサポートを受けやすくなった。新聞記者の方から継続して直接指導を受けられる利点を生かして、“新聞風”になりがちな学校現場での新聞作りを、本物に近づけたい。本物の新聞作りを通して、新聞の奥の深さ、新聞から得られる情報の有益さを実感して欲しい。

③伝える相手を意識した情報発信の方法を身につける

十分な情報を含みながらも簡潔に表現されている新聞の文章について学び、実際に情報を発信する経験をすることで、伝える相手を意識した情報発信の方法を身につけさせたい。新聞作りだけでなく、それ以外の場面でも生かせるよう取り組む。

3. 研究の概要

(1) 生徒が新聞に触れる機会をつくり興味関心を持たせる

平成 27 年度は、9 月から 12 月まで「信濃毎日新聞」「朝日新聞」「中日新聞」「毎日新聞」「産経新聞」「日本経済新聞」「読売新聞」の 7 紙を提供していただいた。教室棟 2 階、3 階の階段踊り場を閲覧スペースとし、長机に 3 紙と 4 紙に分けて置き、生徒が自由に閲覧できるようにした。登下校時だけでなく、移動教室の際に頻繁に通る場所ということもあり、立ち止まって新聞を手取る生徒が徐々に増えていった。複数の新聞が並べられていることで、1 面の記事の構成の違いや取り上げられ方の違いなどを比較する生徒の姿も見られた。



(2) 新聞を日常的に読むことで身近な存在に

①新聞から情報を読み取り、発信する活動（1 年 2 学期～）

1 学年では、朝学活時に前日または当日の新聞記事を取り上げてスピーチをするという活動を行った。新聞を手にしたことのない生徒は、新聞の見方もよく分からない状況から始めたため、1 面のトップ記事の見出しを読んだだけで記事を選んでくることがほとんどだったが、繰り返し取り組んでいく中で新聞を開いて熱心に記事を探す姿が増えていった。また、手探りの状態でこの活動を始めたため、生徒の中に新聞の見方・読み方を詳しく知りたいという意識が生まれ、出前講座で新聞の読み方・作られ方を学ぶことにつながっていった。



スピーチで使用したワークシート。初めは感想を書くのみの形式だったが、新聞の読み方・作られ方を学習する中で、項目を「この記事が伝えたいこと」「この記事の要点 (3 つ)」「この記事に対する自分の考え」に変更し、より記事を読み込めるようにした。

②身近な人権問題を見つけよう（1 年 11 月）

11 月には、人権教育月間の一環として、人権問題に関わる新聞記事を探し、それを“世界人権宣言”（授業では「やさしい言葉で書かれた世界人権宣言」を使用）の条文と照らし合わせ問題点を明らかにし、その問題に対する自分の考えをまとめるという活動を行った。この活動を通して、生徒たちは「身近なところにも人権問題が多く存在すること」、「人権問題は日常生活に関わることから国際的なことまで多岐に渡ること」、そして「新聞記事を読み込んで理解することの難しさ」を感じていた。新聞に書かれている記事の多様性、情報量の多さをあらためて感じていく姿があった。



気になる新聞記事を見つけ、世界人権宣言の条文と照らし合わせ問題点を明らかにしていく。「人権問題は見ようとしなければなかなか見えてこないもの」を、新聞を通じて実感する。

(3) 公開授業・「総合的な学習の時間」学習指導案

①単元名「小学6年生に中学校を紹介しよう」

②単元設定の理由

南木曾町では、町内に小中1校ずつということもあり、小学生と中学生の交流が活発に行われており、地域行事に異年齢間で協力して取り組む姿も見られる。中学校では、新1年生が入学時にスムーズに学校生活を送れるよう、9月の総合発表会に6年生を招待したり、毎年1月に学校説明会を開催したりしている。そういった取り組みもあって、1年生の多くは大きな抵抗をもつことなく中学校生活をスタートすることができている。1月の学校説明会では、中学1年生が学校を紹介する資料を作成したり、実際に説明を行ったりして、学校生活の様子を伝えている。現1年生もこの説明会の印象が今も残っており、学校生活を知るために学校説明会が効果的であったことがわかる。

4月：中学校入学、5月：部活動入部、6月：運動部中体連大会、9月：郡陸上大会、総合発表会、10月：新人戦など、様々な活動を通して、生徒は中学生としての経験を積み重ねてきている。秋になり、3年生はいよいよ受検へ、2年生は生徒会引き継ぎへ、そして1年生は先輩になる準備、後輩を迎える準備へと意識を向けていくことになる。1月の学校説明会を、まだ幼さの残る1年生が「先輩になる」「後輩を迎える」意識を高めるための大切な機会と捉え、企画・運営をしていく中で成長させたいと考えている。

様々な意義がある学校説明会だが、時間の制約もあり当日は簡単な説明になってしまいがちという課題もある。そこで、身近な存在であり、社会の調べ学習や朝のスピーチなどで慣れ親しんできた新聞という情報発信の手段を使って、事前に6年生に学校の紹介ができるのではないかと考えた。

このような学習活動を通して、伝える相手を意識して情報を発信する方法を知り、その大切さに気づいて欲しいと願い、本題材を設定した。

また、学校を紹介する活動を通して、学校のことをあらためて調査し、自分たちの学校の良さを再発見する機会になることも期待している。

③単元目標

新中学1年生を迎える準備を進める生徒たちが、記者の方に教わった新聞記事の書き方をもとに、相手意識を持ったり、伝えたいことをはっきりさせたりしながら、文章や構成を工夫することを通して、小学6年生に自分たちの学校の良さを発信することができる。

④単元展開の概要（全8時間）

時間	学習活動	○生徒の活動 ※生徒の意識 ◎教師の指導・助言
1	「先輩」になるために ・「学校説明会」について	◎自分たちにとって、あこがれる先輩の姿はどんなものか考えるよう促す。 ○2年生になるまでに、自分たちはどんな中学生になっていなければいけないか考える。 ◎昨年の学校説明会の写真や資料を見たり、入学した時に感じたことを想起したりしながら、今年の学校説明会をどんなものにしていきたいか考えさせる。 ※小学6年生に分かりやすく、中学に入学してから困らないように十分な情報を伝えたい。 ○学校説明会を通して、小学6年生に中学校の様子を分かりやすく伝えるにはどうすれば良いか考える。 ※プレゼンをする、パンフレットを作って配布する、学校を紹介する新聞を作るなど、いろいろな方法が考えられそうだ。時間の制約がある中で、いつも見てもらえて、より分かりやすく伝えるためにはどうしたら

		<p>良いだろうか。</p> <p>◎中学校のことを伝える手段を考えさせる。いくつか案が出てきた中から、新聞を取り上げ、信濃毎日新聞（以下：信毎）の出前講座・指導が受けられることを生徒に紹介する。</p>
2	新聞の書き方を知る (信毎出前講座)	<p>○信毎の出前講座から、新聞の読み方、新聞の作られ方、新聞を書くときのポイント、取材のポイントについて学ぶ。</p> <p>◎これまで自分たちが書いてきた新聞と本物の新聞との違いを意識させる。</p> <p>○新聞がページごとにテーマ分けされていることを知り、「中学校について」だったらどんなテーマが設定できるか考える。</p> <p>◎自分たちが新聞を作るとしたらという視点を持たせ、次時以降の活動につなげる。</p>
3, 4	記事にする題材探し	<p>◎新聞の形式について、各グループ(4人)で1紙面を作成し、合計8面を1つの冊子としてまとめること、各紙面で1つのテーマを担当し、その中に4つの記事を書くことを確認する。</p> <p>◎小学6年生が中学入学までに知っておいた方がいいことを、相手の立場になって考え、ページごとのテーマを考えるよう促す。</p> <p>○昨年の説明会の内容も参考にして、小学生に伝えたい内容・テーマを挙げ、各班で担当するテーマを決定する。</p> <p>○決定したテーマの中で、これまでの経験をもとに、具体的に記事にする題材を挙げていく。</p> <p>※自分たちの経験からだけでなく、小学校6年生が不安に感じていること、知りたがっていることを詳しく知りたい。</p> <p>◎必要に応じて、小学校の担任を通じて小学校6年生の実態を調査する。</p> <p>※たくさんの題材が出てきて、どれの記事にしていくか迷う。この中から絞っていかねばならないが、記事にする題材を決め出すためには、どうしたら良いだろうか。</p> <p>◎実際の新聞作りで行われている出稿メモを用いた編集会議について紹介する。</p> <p>○出稿メモを作成するために、必要に応じて取材を行う。</p>
5	編集会議に向けて、出稿メモを作成する	<p>○編集会議をするための出稿メモを作成する。</p> <p>○情報が曖昧であったり、さらに詳しく知りたかったりする場合は取材を行う。</p>
6 (本時)	記事にする内容を検討する編集会議	<p>○どれの記事に採用するか、どの記事をどの位置で扱うか、グループで意見交換する編集会議を行う。</p> <p>※6年生にとって、より知りたい情報とは何だろう。</p> <p>◎読む人の立場になって、伝えたい内容の優先順位と構成を決定するよう促す。</p>
7	記事にまとめる、文章化 (信毎出前講座)	<p>○記者の方に教えていただきながら、細かい文章表現にも気を配りながら、記事の文章をまとめていく。</p> <p>◎6年生に配布すること、小学校に掲示することを意識して製作するよう促す。</p>

⑤本時案

(i) 主眼

小学6年生に中学校を紹介する新聞作りを進める生徒たちが、新聞に採用する記事と構成を決定するために編集会議を行う場面で、6年生が知りたい情報は何か、入学までに知っておいて欲しい情報は何かを考えながら出稿メモを用いて班で意見交換をすることを通して、記事の優先順位や構成を決定することができる。

(ii) 本時の位置 全7時間中の第6時

前時…前々時で、班ごとに担当するテーマに関する題材を挙げていくと、たくさんの題材が出てきてどれを記事として採用していくか困ってしまった。そこで、実際の新聞作りでも行われている出稿メモを用いた編集会議を行うことにした。前時では、信毎の記者の方に指導していただき編集会議で扱う出稿メモを作成した。

次時…本時の編集会議で決定した採用する記事と構成をもとに、信毎の記者の方の指導を受けながら新聞の文章を書いていく。

(iii) 指導上の留意点

・班ごとに編集会議を行う場面では、自分たちの「記事にしたい」という思いだけではなく、読者である6年生の存在を常に意識するよう助言する。

(iv) 展開

段階	学習活動	形態	予想される生徒の反応	指導・助言, 評価	時間	準備品	
導入	6年生に中学校のことを分かってもらえる新聞にするために、班ごとに編集会議を行い、採用する記事と構成を決定しよう。						
	1. 本時の学習を確認する。	学級全体	<ul style="list-style-type: none"> 前の時間に作った出稿メモを使って編集会議をし、どの題材を記事として採用するか、どんな構成にするか決められるといい。 どうやって編集会議を進め、決定していったらいいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動がスムーズに進むように、活動の流れを確認させる。 ○グループでの話し合いの進め方、採用する記事と構成の決め方、記録の取り方について確認する。 	5分	出稿メモ 学習カード	
展開	2. グループごとに編集会議を行う。	グループごと	編集会議の進め方 (リーダーに配布・事前指導済み) ① 出稿メモの内容を作成者が発表する。 ② 1つ発表するごとに、質問があるか確認する。 ③ 発表した出稿メモをピラミッドランキングシートに置く。その際、先に置かれている出稿メモと似た内容の場合は近くに置き、同グループとして考え、以後、移動させる場合は一緒に動かすようにする。 ※①～③を繰り返し、「必要」「すごく必要」「絶対必要」のランキングの中で出稿メモを動かしていく。 ④ 全ての出稿メモがランキングシートに置かれたら、順位の高いものから4つ(のグループ)の出稿メモを記事として採用する。 ⑤ それぞれ(のグループ)の記事の担当を確認する。(中心となる出稿メモの作成者を考慮し、1人1つは必ず担当するようにする。)				
	①出稿メモの内容を作成者が発表する。 ②発表された出稿メモについて質問があるか確認する。		<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん出稿メモを作っている人もいる。 ・目の付け所が面白い記事がある。 ・少し違った視点から質問を出してもらえると、記事の内 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ内の進行をリーダーに委ね、机間指導をしながら、進行の仕方等の質問に答えていく。 ○②で質問をする際は、疑問点を明らかにするのみとし、「も 	25分		

展 開	③発表した出稿メモをピラミッドランキングシートに置く。		<p>容が具体的になったり分かりやすくなったりしそうだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出稿メモを発表していくと、似た内容のものがある。 内容の似ている出稿メモを仲間分けしていくと、ランキングがつけやすくなる。 6年生にとっての必要度を意識してランキングをつけよう。 全員が必ず記事を担当できるようにするにはどのように分担したらいいだろう。 	<p>「とこうの方がいい」等の記事の内容を加除修正する意見は出さないことを確認する。</p> <p>○③で出稿メモの分類に迷っている場合は、記事の要点に注目して判断するよう促す。</p> <p>○⑤で担当者を決定する場面でつまずきがある場合は、中心となる出稿メモの作成者と紙面全体のバランスを考慮するよう助言する。</p>		
	④ランキング順位の高いものから4つの記事として採用する。					
展 開	3. 編集会議で決定した記事と構成を全体で共有する。	学級全体	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともみんなの意見を踏まえて記事と構成を決定してきたことが分かる。 それぞれの紙面の記事と構成が分かってくると、新聞の全体像が少し具体的になって見えてきた。 	○それぞれの班が作る紙面は、テーマは違っても全員で作っている新聞の一部であることをあらためて確認し、全体で編集会議の結果を共有する。	15分	
終 末	4. 編集会議を振り返る。	学級全体	<ul style="list-style-type: none"> たくさんあった候補の中から4つの記事を決めることができて良かった。 色々な視点から意見を出してもらうことで、記事の内容がより良いものになった。 自分のやりたいことを主張するだけでなく、それぞれの思いを伝え合ったり受け止めたりのことで、物事を決定していくことができた。友達と協力して記事と構成が決めることができて良かった。 	<p>○決定した記事や構成についての振り返りだけでなく、決定するまでの過程に目を向け、編集会議の取り組みや感じたことを振り返るよう促す。</p> <p>○振り返りカードに記入させる。</p>	5分	学習カード

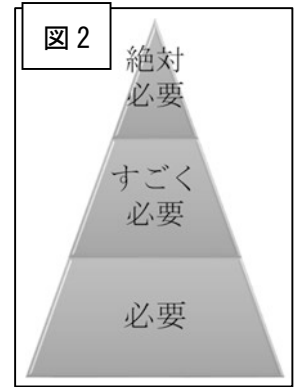
⑥資料

(i) 出稿メモについて (図1)

実際の新聞社で行う編集会議で使われる出稿メモを参考にする。「この記事で伝えること」と3つの要点、写真や図など記事に付けられそうな情報が示されている。

(ii) ピラミッドランキングについて (図2)

出稿メモに順位付けをし整理するため、ピラミッドランキングを活用する。机上のランキングシートに出稿メモを置きながら編集会議を進める。



⑦授業の実際

- ・ 授業を構想する段階では、より多くの出稿メモが編集会議に出され、その中で出稿メモに順位をつけ、採用・不採用となる記事を決め出していくことを中心に考えていたが、取材計画を立てたり、出稿メモを作成したりしていく中で、ほとんどのグループで記事が自然と4つにまとまっていったため、本時では4つの出稿メモを用いて構成を決定することが活動の中心となった。
- ・ 導入の場面で、記事の優先順位による構成の例を示す際には字数や写真の大きさなどの詳しい情報は伝えず、構成についての柔軟性を残した。これは、写真を多く使って紙面を稼いだり、字数を減らしたりといった楽をしようとする発想を持たせないためであったが、生徒たちはそれ以上に取材してきたことや伝えたいことが充実しており、夢中になって構成を考えていた。
- ・ 授業終盤、構成が決定してから記事に入れられそうな写真や図についても検討するよう促したが、この場面では字数や記事に入れられる写真等の具体的な情報が少なく、十分に議論を深めることができなかつた。構成について柔軟性を残した状態で編集会議を行ったが、完成形のイメージが持っていないことによるつまずきも見られた。
- ・ 「テスト勉強・家庭学習」というテーマを担当したグループでは、自分たちの経験、特に“毎日の生活”を中心に考え、「勉強のコツ」をトップ記事として決め出した。編集会議を行う際に、「自分はこうだったから」が常に根拠となっていた。「6年生はこう思っているから」を根拠に加えるため、小学6年生が感じている中学校生活に対する不安等を事前に調査するなどの手立てを考える必要もあるか。しかし、実際の新聞作りでは読者に対して調査等を行うということではなく、記者が考える情報の重要性とそれに対する考えが記事に書かれている。実際の新聞作りと同様の考え方をしていくのであれば、6年生に対して事前に調査を行うことは違和感がある。新聞作りにおける“相手意識”について、研究を深めたい。
- ・ 本時では、記事の優先順位を可視化するためにピラミッドランキングシートを用いた。生徒たちはシート上で出稿メモを操作しながら構成を決定していった。話し合いの内容・視点に合わせて、思考ツールを開発していくことで、グループでの活動が充実することが実感できた。



授業冒頭で、紙面内での順位による記事の位置についておおまかに生徒に確認した。位置の例のみとし、字数や写真のスペースについての具体例は挙げずに編集会議に移った。



4. 研究のまとめと今後の課題

NIE 研究指定校となり、新聞社のサポートを受けられるということで、“本物”の新聞作りを目指して本単元を進めてきた。「取材」「出稿メモ作成」「編集会議」「1面で取り上げる記事を決めるための各グループの“デスク”が集まっての編集会議」「記事の執筆」と、実際の新聞作りの方法に沿って、学校紹介新聞作りを行ってきた。4人1組の8つのグループがテーマを決めて担当した各紙面、1面、裏1面の合計10紙面の新聞を完成させるためには、多くの時間と労力が必要となったが、新聞にほとんど触れたことのなかった生徒たちが、新聞について知り、興味をもつために、素晴らしい経験をすることができた。学校紹介新聞を作成中のある日、家庭では新聞を購読しておらず、取り組みを始めた当初は新聞の見方がわからず新聞を読むことに抵抗をもっていたある生徒が、「この新聞も毎日たくさんの人が頑張って作ってるんだよなあ」と友達と会話をしながら新聞閲覧スペースで新聞を開く姿を目にすることができた。授業を構想するために新聞社の方と何度もお話をさせていただく中で、私自身も感じてきた思いだ。このような取り組みをしてきたことで、生徒たちの新聞への関心・社会への関心は確実に高まっており、ものの見方が広がってきている。

本単元では、生徒たちの課題である「相手意識」を高めることをねらってきた。生徒たちは、常に「後輩である6年生のために」という思いをもって新聞作りを進め、「この書き方で伝わるだろうか」と推敲を重ねていた。思ったことをそのまま口にしてばかりいた頃と比べると大きな成長を感じる姿であった。相手の存在を意識することでここまで変わるのかと驚かされることも少なくなかった。また、6年生に向けた新聞作りを通して、先輩になるための意識を高めることにもつながっていた。

「新聞を読む子は学ぶ力が高い」と、新聞を読むことと学力の相関関係が明らかにされている。しかし、本校では半数の家庭が新聞を購読していないという地域の実情（課題）がある。そんな中であっても、新聞を読む機会を学校で作っていく必要性が非常に高いことを感じる。しかし、授業時数のやりくりや教材開発は容易ではない。教科内外で、日常のかつ継続的に新聞を扱っていく環境を整えられれば、生徒たちの学力（向上）を支えることにつながると考える。生徒と地域の実情に応じた環境作りと教材作りを今後も考えていきたい。